

2018年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなないでできるだけわかりやすく記述してください。

基盤テーマとする「障老病異」をめぐる教育・研究活動として①学術研究事業(公開研究会・国際ワークショップの開催等)、②教育活動・社会連携事業(セミナー企画、当事者参画型活動等)、③研究活動と若手研究者育成との連携(研究プロジェクト、研究支援等)、④研究成果発信事業(紀要刊行、電子ジャーナル発刊等)をおこなった。

①学術研究事業

公開研究会・ワークショップ・シンポジウムを積極的に開催した(主催・共催等として 21 回開催)。国際的な研究活動として、台湾・国立台湾大学での韓国・中国・台湾・香港・マカオ等の障害当事者・研究者による「遊ぶ権利:障害者権利条約第 30 条」をテーマとした国際セミナー「East Asia Disability Studies Forum 2018」(2018 年 10 月)、香港大学での障害者権利条約に関するワークショップ「Workshop on Disability Rights and Equality 2018」(2018 年 7 月)、シンガポールでの障害者権利条約パラレルレポートに関するワークショップ「CRPD Parallel Report Workshop for ASEAN Disability Forum」(2018 年 12 月)のほか、国内で「Conference on Disability, SOGIE and Equality in Asia」(朱雀、2018 年 8 月)、国際ワークショップ「Skills of Feeling with the World」(衣笠、2019 年 1 月)等を開催した。国内においても、東京大学での REDDY 公開講座「障害者権利条約の実施——批准後の日本の課題」(東京、2018 年 12 月)や上智大学グローバル・コンサーン研究所と連続講座「移民二世からの研究発信」(京都・大阪、2018 年 10 月・12 月)の他、公開シンポジウム第 1 回「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」(衣笠、2018 年 12 月)や「安楽死のリアル」(朱雀、2019 年 2 月)等の公開講座を開催した。

②教育活動・社会連携事業

JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)立命館開講講座として「生存学の企て:病い、老い、障害とともに」(2019 年 1 月～2 月)や連続セミナー「障害/社会」(京都、2018 年 5 月)を開催した。公開企画「安楽死のリアル」(2019 年 2 月)では、ニコニコ生放送「安楽死を問う:それは現代社会のパンドラの箱か」(2019 年 1 月)、現代ビジネス、京都新聞、生協ブックセンターふらっと(衣笠・朱雀)と連携し、200 名以上の参加者を得た。学内において、創思館 4 階生存学書庫の改修計画、土曜講座の情報アクセス保障推進、学内障害平等研修(DET)実施提案等に取り組んだ。

③研究活動と若手研究者育成との連携

若手研究者と大学院生のチーム参加を必須とする研究プロジェクト制度において、現代社会エスノグラフィ研究会、生命科学政策史研究会、生存をめぐる制度編成研究プロジェクトの 3 プロジェクトに研究支援をおこなった。若手研究者研究力強化型「国際的研究活動」支援を継続し、韓国、台湾、中国、インドネシア、アメリカに関する研究活動 6 件に研究支援をおこなった。第 4 回「生存学奨励賞」を実施し、若手研究者への研究発展を奨励した。

④研究成果発信事業

紀要『立命館生存学研究』第 2 号、Ars Vivendi Journal No.10(Special Issue : Life and the community)、No.11(Special Issue : Disabled Women and Sexuality)に加え、立命館大学研究活動報『RADIANT』ISSUE

#10「特集:いのち」に巻頭記事を寄稿した。また、多言語で SNS(Facebook、titter)を更新するとともに、情報保障機能をもちあわせた学術データベース arsvi.com(<http://www.arsvi.com/>)にてアーカイヴィング事業を継続しておこなった。

○意義と重要性

研究センターの活動成果は学術的コミュニティ内のみならず社会的にも広く共有された。また、2 年間にわたる常設化準備(基盤形成)の結果、2019 年 4 月より生存学研究所の設立に至った。これからも、多世代/多文化において生きる「障老病異」の課題を当事者性に立脚し「誰ひとり取り残さない」社会の在り方を模索する先端的かつ教育研究実践を成し遂げる研究拠点としての活動を継続・発展させていく。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	上野 千鶴子	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	大谷 いづみ	社会学研究科	教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授	
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授	
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	客員教授	
	桜井 政成	政策科学部	教授	
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授	
	鎮目 真人	産業社会学部	教授	
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授	
	Andrea De Antoni	国際関係学部	准教授	
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授	
	富永 京子	産業社会学部	准教授	
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授	
	中村 正	人間科学研究科	教授	
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授	
	林 達雄	立命館大学衣笠総合研究機構	研究顧問	
	松尾 匡	立命館大学大学経済学部	教授	
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授	
村本 邦子	人間科学研究科	教授		
望月 茂徳	映像研究科	准教授		
やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員		
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授		
学内教員 (専任教員、研究系教員等)				
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	今里 基	先端総合学術研究科	博士課程
		巽 美奈子	社会学研究科 応用社会学専攻	博士後期課程
		幸 信歩	先端総合学術研究科	博士課程
塩野 麻子		先端総合学術研究科	博士課程	
	坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	博士課程	

		佐草 智久	先端総合学術研究科	博士課程
		橋本 雄太	先端総合学術研究科	博士課程
		伊東 香純	先端総合学術研究科	博士課程
		平安名 萌恵	先端総合学術研究科	博士課程
		高雅郁	先端総合学術研究科	博士課程
		欧陽 珊珊	先端総合学術研究科	博士課程
		シン・ジュヒョン	先端総合学術研究科	博士課程
		三輪 佳子	先端総合学術研究科	博士課程
		野島 晃子	先端総合学術研究科	博士課程
		学振特別研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員		荒木 舞	全国「精神病」者集団	
		金城 美幸	立命館大学	非常勤講師
		篠木 涼	関西大学	非常勤講師
		高橋 涼子	金沢大学人間社会研究域人間科学系	教授
		土肥 いつき	京都府立高校	教員
		堀 智久	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科	専任講師
		松本 理沙	同志社大学社会学部社会福祉学科	実習助手
		吉田 一史美	日本大学生物資源科学部	講師
		CUI JING(崔 竟)	Wuhan East-Lake Institute for Social Advancement (Wuhan, China)	Assistant Researcher
		有馬 斉	横浜市立大学都市社会文化研究科	准教授
		青木 慎太郎	公益社団法人京都府視覚障害者協会	理事
		安部 彰	龍谷大学	非常勤講師
		有吉 玲子	松島医院	看護師長
		飯田 奈美子		
		一宮 茂子		
		打浪 文子	淑徳大学短期大学部 こども学科	准教授
		浦田 悠	大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部	特任講師
		太田 啓子	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター附属看護学校	非常勤講師
		大貫 菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
		大野 光明	滋賀県立大学 人間文化学部	准教授
	岡本 晃明	京都新聞社 報道部		
	尾上 浩二	特定非営利活動法人・DPI 日本会議	副議長	

	於保 真理	神奈川工科大学	非常勤講師
	葛城 貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネット	理事長
	加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	角崎 洋平	日本福祉大学 社会福祉学部	准教授
	河口 尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口 有美子	(有)ケアサポートモモ	代表取締役
	川田 薫	株式会社サーベイリサーチセンター	職員
	北村 健太郎	立命館大学生命科学部	非常勤講師
	郭 貞蘭(クァク ジョンナン)		
	高 薇	Principle Researcher, Wuhan East-Lake Institute for Social Advancement; Research Fellow, Wuhan University Public Interest and Development Law Institute	
	小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	講師
	小林 勇人	日本福祉大学	准教授
	佐藤 静	大阪樟蔭女子大学 学芸学部	准教授
	孫 美幸	大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター	講師
	田中 慶子	広島修道大学 人文学部	准教授
	田中 真美	京都栄養医療専門学校, 京都西山短大短期大学	非常勤講師
	田邊 健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師
	谷村 ひとみ	社会福祉法人 えのき会	看護師
	玉井 隆	特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会	理事
	張 万洪 ZHANG Wanhong	Wuhan University School of Law	Professor
	利光 恵子	女性のための街かど相談室 ここ・からサロン	共同代表
	仲尾 謙二		
	中倉 智徳	立命館大学大学院先端総合学術研究科	研究指導助手
	永田 貴聖	国立民族学博物館	外来研究員
	永山 博美	独立行政法人労働者健康安全機構 神戸労災病院	看護師
	新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト(Project SCOBUS)	幹事
	西沢 いづみ	京都中央看護保健大学校	講師
	能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原 三義	相生鍼灸、npo 法人オレンジcommons	院長、理事
	箱田 徹	天理大学人間学部総合教育研究センター	准教授

橋口 昌治	特定非営利活動法人日本自立生活センター自立支援事業所	職員
長谷川 唯		
番匠 健一	同志社大学<奄美・琉球・沖縄>研究センター	研究員
樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	准教授
藤原 良太	NPO 法人わかみやクラブ 中野区立放課後デイサービスセンターみずいろ	児童指導員
牧 昌子	京都府国民健康保険審査会	委員
増田 英明	一般財団法人日本ALS協会	副会長
松波 めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
村上 潔	神戸市外国語大学	非常勤講師
安原 荘一	全国「精神者」集団	運営委員
矢野 亮	日本福祉大学福祉経営学部	助教
山田 裕一	特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン 事業部長/熊本県発達障害当事者会 Little bit 顧問ソーシャルワーカー/発達協働センターよりみち相談支援専門員	
山本 晋輔	株式会社ゆう建築設計事務所	社員
山本 由美子	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科	講師(テニユア・トラック)
梁 陽日	同志社大学	嘱託講師
横田 陽子		
頼尊 恒信	NPO 法人 CIL だんない	事務局長
ワフユディ(小宅) 理沙	同志社女子大学 現代社会学部	助教
中尾 麻伊香	長崎大学原爆後障害医療研究所	助教
土橋 圭子	愛知県立春日台特別支援学校	教諭
田中 壮泰		
鈴木 羽留香	同志社大学 イノベティブ・コンピューティング研究センター	嘱託研究員
松枝 亜希子		
窪田 好恵	滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科	准教授
佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師
長崎 潔		
栄 セツコ	桃山学院大学社会学部	教授
金 政玉	明石市福祉局生活支援室障害福祉課	共生福祉担当課長
大野 藍梨		
原 昌平	読売新聞大阪本社 編集局	編集委員
井上 武史	特定非営利活動法人メインストリーム協会	スタッフ

	Ignacio Calderón Almendros	the Department of Theory and History of Education and Research & Diagnosis Methods in Education at the University of Malaga, Spain	Assistant Professor
	Anne-Lise Mithout	Université Paris-Diderot, Faculty of Japanese Studies	Associate Professor
	篠原 眞紀子	大阪国際大学短期大学部	非常勤講師
	鄭 喜慶	光州大学 社会福祉学部	助教授
	許 叔民	光州福祉財団	主任研究員
	笹谷 絵里		
	坂井 めぐみ		
	吉村 夕里		
	飯野 由里子	東京大学大学院教育学研究科バリ アフリー教育開発研究センター	特任助教
	榊原 賢二郎	東洋大学ライフデザイン学部	非常勤講師
	細谷 幸子	国際医療福祉大学 成田看護学部	准教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	由井 秀樹	日本学術振興会特別研究員(静 岡大学)	
研究所・センター構成員 計 136 名 (うち学内の若手研究者 計 15 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・ 号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩 真也	『人間の条件——そんなも のない 第2版』	単著	2018年4月	新曜社	—	—
2	立岩 真也	でも、社会学をしている	共著	2018年4月	東京大学出版会、『社会が 現れるとき』	若林 幹夫, 佐藤 俊 樹	—
3	立岩 真也	『不如意の身体——病障害 とある社会』	単著	2018年11月	青土社	—	—
4	立岩 真也	『病者障害者の戦後——生 政治史点描』	単著	2018年12月	青土社	—	—
5	立岩 真也	書評：榊原賢二郎『社会的 包摂と身体——障害者差別 禁止法制後の障害定義と異 別処遇を巡って』	単著	2018年11月	『障害学研究』14	—	296-307
6	立岩 真也	解題「この本はまず実用的 な本で、そして正統な社会 科学の本だ」	共著	2018年9月	生活書院『自動車 カーシ ェアリングと自動運転とい う未来——脱自動車保有・ 脱運転免許のシステムへ』	仲尾 謙二	—
7	岸 政彦	『はじめての沖縄』	単著	2018年5月	新曜社	—	—
8	岸 政彦	『マンゴーと手榴弾』	単著	2018年10月	勁草書房	—	—
9	岸 政彦	『社会学はどこから来てど こへ行くのか』	単著	2018年11月	有斐閣	北田暁大, 筒井淳也, 稲葉振一郎	—
10	桜井 政成	『ソーシャル・キャピタル と経営』	共著	2018年12月	ミネルヴァ書房	金光淳・鈴木竜太・小 豆川裕子・秋山高志・ 井戸川博樹・西口敏 宏・桜井政成・山田一 隆・若林直樹・北見幸	104-129

						一・田原慎介・稲葉陽 二	
11	サトウ タツヤ	対話を起こし、プロセス理解を支え、振り返りを促進する一質的アプローチのいかされ方 (中坪史典 (編), 質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする一保育者が育ち合うツールとしての KJ 法と TEM)	共著	2018年5月	ミネルヴァ書店	安田裕子	237-241
12	サトウ タツヤ	本書を読み終えたみなさんへ (中坪史典 (編), 質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする一保育者が育ち合うツールとしての KJ 法と TEM)	共著	2018年5月	ミネルヴァ書店	安田裕子	237-241
13	サトウ タツヤ	質的心理学辞典	編著	2018年11月	新曜社	能智正博・香川秀太・川島大輔・柴山真琴・鈴木聡志(編集)	—
14	サトウ タツヤ	文化心理学	共編著	2019年3月	ちとせプレス	木戸彩恵	—
15	サトウ タツヤ	文化心理学の歴史 木戸彩恵・サトウタツヤ (編)『文化心理学』	単著	2019年3月	ちとせプレス	—	15-26
16	サトウ タツヤ	記号という考え方 木戸彩恵・サトウタツヤ (編)『文化心理学』	単著	2019年3月	ちとせプレス	—	27-39
17	サトウ タツヤ	時間と記号 木戸彩恵・サトウタツヤ (編)『文化心理学』	単著	2019年3月	ちとせプレス	—	41-51
18	鎮目 真人	『よくわかる福祉行政と福祉計画』	分担執筆	2018年5月	ミネルヴァ書房	永田祐、岡田忠克編	30-35,40-45
19	千葉 雅也	『思弁的実在論と現代について——千葉雅也対談集』	共著	2018年7月	青土社	小泉義之ほか	—
20	千葉 雅也	『意味がない無意味』	単著	2018年10月	河出書房新社	—	—
21	千葉 雅也	『欲望会議——「超」ポリコレ宣言』	共著	2018年12月	KADOKAWA	二村 ヒトシ, 柴田英里	—
22	千葉 雅也	『ドゥルーズの21世紀』	分担執筆	2019年1月	河出書房新社	檜垣立哉ほか	—
23	DE ANTONI Andrea	Going to Hell in Contemporary Japan: Feeling Landscapes of the Afterlife, Othering, Memory and Materiality (Working Title)	単著	2019年	London and New York: Routledge (Contract signed)	—	—
24	DE ANTONI Andrea	Feeling (with) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field	共編著	2019年	Asian Anthropology, Special Issue	Emma Cook	—
25	DE ANTONI Andrea	“Came Back Hounded: A Spectrum of Experiences with Spirits and Inugami Possession in Contemporary Japan.” In Rambelli, Fabio (ed.). Invisible Empire: Spirits and Animism in Contemporary Japan.	単著	2019年	Bloomsbury	—	109-125
26	DE ANTONI Andrea	“Call Me a Dog: Feeling (Inugami) Possession in Contemporary Tokushima Prefecture.”	単著	2019年	Routledge	—	—

		In Irina Holca and Carmen Săpunaru Tămaş (eds.). The Transformed Body in Japanese Society and Fiction (Working Title). (Under review)					
27	DE ANTONI Andrea	“Coping with the Spirits of Unsettled Death.” In Hendry, Joy (ed.). Understanding Japanese Society, Fifth Edition.	単著	2019年	Routledge	—	—
28	富永 京子	『グローバル現代社会論』	共著	2018年10月	文眞堂	山田真茂留	174-190
29	富永 京子	『現代文化への社会学 90年代と「いま」を比較する』	共著	2018年10月	北樹出版	高野光平・加島卓・飯田豊	136-146
30	富永 京子	『ポスト情報メディア論』	共著	2018年10月	ナカニシヤ出版	岡本健・松井広志	169-180
31	長瀬 修	障害者権利条約と障害者差別解消法・改正障害者雇用促進法『社会の障害をみつければ』	共著	2018年7月	現代書館、『社会の障害をみつければ』	久野研二編著	118-129
32	中村 正	治療的司法の実践-更生を見据えた刑事弁護のために	分担執筆	2018年10月	第一法規	指宿信監修・治療的司法研究会編著	1-41,349-366,444-463
33	中村 正	“教育から学習への転換”のその先へ-Unlearningを焦点に大学教育を構想する-	共著	2019年3月	文理閣	中村正、景井充、杉野幹人	84-151
34	松原 洋子	『生命倫理のレポート・論文を書く』	共編著	2018年4月	東京大学出版会	伊吹友秀	—
35	松原 洋子	「引揚者医療救護における組織の人工妊娠中絶—優生保護法前史」、坪井秀人編『戦後日本を読みかえる4 ジェンダーと生政治』	分担執筆	2019年3月	臨川書店	坪井秀人編	35-77
36	松原 洋子	「コラム 1 科学をグローバルヒストリーで捉えなおす」、山下範久編『教養としての世界史の学び方』	分担執筆	2019年3月	東洋経済新報社	山下範久編	401-407
37	美馬 達哉	「リスクで物事を考える」、『学ぶということ続・中学生からの大学講義 1』	分担執筆	2018年5月	ちくまプリマー新書	桐光学園、ちくまプリマー新書編集部編	127-150
38	美馬 達哉	「優生学的想像力—津島佑子『狩りの時代』を読む」、『戦後日本を読みかえる第4巻 ジェンダーと生政治』	分担執筆	2019年3月	臨川書店	坪井秀人編	3-36
39	村本 邦子	質的心理学辞典(「エンパワメント」の項目)	分担執筆	2018年11月	新曜社	能智正博編集代表	32-33
40	村本 邦子	メンタルヘルスの道案内-現代を生きる30章(17章被害者)	共著	2018年12月	北大路書房	徳田完二・竹内健児・吉沅洪	112-117
41	安田 裕子	対話を起こし、プロセス理解を支え、振り返りを促進する—質的アプローチのいかされ方(中坪史典(編),『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする—保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』)	共著	2018年5月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ	211-221
42	安田 裕子	本書を読み終えたみなさんへ(中坪史典(編),『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインす	共著	2018年5月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ	237-241

		る一保育者が育ち合うツールとしての KJ 法と TEMJ)					
43	安田 裕子	社会実装、生殖（リプロダクション）、TEA（複線径路等至性アプローチ）、トランスビュー、妊娠・出産、発生の三層モデル、犯罪被害者、歴史的構造化招待（能智正博・香川秀太・川島大輔・サトウタツヤ・柴山真琴・鈴木聡志・藤江康彦（編）『質的心理学辞典』）	単独	2018年11月	新曜社	—	145-146, 176, 207-208, 227, 238, 249, 256, 326
44	安田 裕子	心の生涯発達（徳田完二・竹内健児・吉沅洪（編）、『メンタルヘルスの道案内—現代を生きる30章』）	単独	2019年1月	北大路書房	—	16-21
45	安田 裕子	不妊とストレス（徳田完二・竹内健児・吉沅洪（編）、『メンタルヘルスの道案内—現代を生きる30章』）	単独	2019年1月	北大路書房	—	88-89
46	安田 裕子	本書が拓く新しい視角—保育実践研究がもたらす TEA の新展開（中坪史典（編）、『複線径路・等至性アプローチ（TEA）が拓く保育実践のリアリティ』）	単独	2019年	特定非営利活動法人 ratik	—	—
47	やまだようこ	「エリクソンの人生と生成継承性」（『世代継承性研究の展望』）	分担執筆	2018年	ナカニシヤ出版	岡本祐子（編）	—
48	やまだようこ	「イメージ」、「三項関係」、「物語的自己」、「実験科学」、「野外科学」、「ライフ」、「他界観」、「ダント」、「パーソナル・ドキュメント」、「ビジュアル・ナラティブ」、「フィールド心理学」、「ライフサイクル」、「モデル」、「モデル構成的フィールド心理学」、「川喜田二郎」（『質的心理学事典』）	分担執筆	2018年	新曜社	能智正博ほか（編）	—
49	櫻井 悟史	『フードスタディーズ・ガイドブック』	共著	2019年3月	ナカニシヤ出版	安井大輔編	181-186 225-236
50	有馬 斉	『死ぬ権利はあるか』	2019年2月	春風社			560
51	加藤 有希子	『ゆらぎ ブリジット・ライリーの絵画』展図録	共著	2018年5月	DIC 川村記念美術館	林道郎、前田希世子	145-151
52	葛城 貞三	『難病患者運動「ひとりぼっちの難病者を作らない」滋賀難病連の歴史』	単著	2019年1月	生活書院	—	308
53	小宅 理沙	社会福祉	共著	2019年2月	全国社会福祉協議会	『最新 保育士養成講座』総括編集委員会	174-186
54	篠木 涼	『ポストヒューマン—新しい人文学に向けて』	共訳	2019年2月	フィルムアート社	門林岳史監訳、大貫菜穂、唄邦弘、福田安佐子、増田展大、松谷容作共訳	87-158, 283-301
55	孫 美幸	『シリーズ人間科学3 感じる』	共著	2019年3月	大阪大学出版会	入野野宏、北村昭彦、青野正二、綿村英一郎、他6名。	215-237
56	田中 壮泰	（分担執筆）、「ミハイル・バフチン『フランソワ・ラブレールの作品と中世・ルネ	共著	2019年3月	ナカニシヤ出版	安井大輔編『フードスタディーズ・ガイドブック』	187-190

		ッサンスの民衆文化』						
57	仲尾 謙二	自動車 カーシェアリングと自動運転という未来——脱自動車保有・脱運転免許のシステムへ	単著	2018年9月30日	株式会社生活書院	—	—	
58	西沢いづみ	「住民とともに歩んだ医療—京都・堀川病院の実践から」	単著	2019年3月	生活書院	—	—	
59	箱田 徹	コラム—東アジア福祉資本主義の類型化は可能か？	単著	2019年	全泓奎編『東アジア都市の居住と生活—実践の現場から』東信堂	—	—	22-26
60	箱田 徹	メイソン・キム著『東アジア福祉資本主義の比較政治経済学：社会政策の生産主義モデル』	監訳	2019年	東信堂	阿部昌樹・全泓奎・箱田徹（監訳）	—	全体
61	箱田 徹	ジャック・ランシエール著『哲学者とその貧者たち』	共訳	2019年	航思社	松葉祥一・上尾真道・澤田哲生・箱田徹（翻訳）	—	序文、第1章
62	細谷 幸子	Thalassemia and Three Iranian Patient Activists: Their Pursuit of Advocacy	単著	2019年2月	Center for Islamic Studies, Sophia University (上智大学イスラーム研究センター)	Sachiko HOSOYA	—	全120頁
63	細谷 幸子	「NGOの活動と役割—脊椎損傷者を対象としたNGOを例に」『現代イランの社会と政治』	共著	2018年1月	明石書店	山岸智子編著	—	114-137
64	巽 美奈子	フードスタディーズガイドブック	共著	2019年3月	ナカニシヤ出版	安井大輔	—	15

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「石川左門達／ありのまま舎——連載・145」	単著	2018年4月	青土社『現代思想』2018年5月号	—	—	
2	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「埼玉と金沢で——連載・146」	単著	2018年5月	青土社『現代思想』2018年6月号	—	—	
3	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「七〇年体制へ・上——連載・147」	単著	2018年6月	青土社『現代思想』2018年7月号	—	—	
4	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「七〇年体制へ・下——連載・148」	単著	2018年7月	青土社『現代思想』2018年8月号	—	—	
5	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「非能力の取り扱い・1——連載・149」	単著	2018年8月	青土社『現代思想』2018年9月号	—	—	
6	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 『「不如意の身体」に加えた部分——連載・150』	単著	2018年9月	青土社『現代思想』2018年10月号	—	—	
7	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 「非能力の取り扱い・2——連載・151」	単著	2018年10月	青土社『現代思想』2018年11月号	—	—	
8	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 『「病者障害者の戦後——生政治史点描」——連載・152』	単著	2018年11月	青土社『現代思想』2018年12月号	—	—	
9	立岩 真也	連載「家族・性・市場」 最終回	単著	2018年12月	青土社『現代思想』2019年1月号	—	—	
10	立岩 真也	連載「何がおもしろ	単著	2018年4月	ジャパンマシニスト社『Chio	—	—	

		うて読むか書くか]		～2019年1月	通信』5～8号			
11	大谷いづみ	現代医学における「死の選択」が問いかけるもの	単著	2018年10月	『大法輪』(85巻10号)	—	135-142	
12	大谷いづみ	ハンドル形電動車いす利用者をめぐる実態と法制度——日本・ドイツ・韓国を中心に	共著	2019年1月	『立命館人間科学研究』(38号)	川端美季	91-100	
13	小川さやか	[連載原稿]チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第4回「ついで」が構築するセーフティネット	単著	2018年4月	Web春秋(春秋社)	—	約9000字	
14	小川さやか	[小論]後ろめたくないお金は実現可能か	単著	2018年5月	仕事文脈(タバックス)(12巻)	—	10-15	
15	小川さやか	[連載原稿]チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第5回ビジネスに必須なのは「信頼の欠如」	単著	2018年5月	Web春秋(春秋社)	—	約9000字	
16	小川さやか	[査読論文]序にかえて—現代的な消費の人類学の構築に向けて(特集:現代消費文化を捉える人類学的視点の探求)	単著	2018年6月	文化人類学(日本文化人類学会)(83巻1号)	—	47-57	査読有
17	小川さやか	[連載原稿]チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第6回客はブローカーのもの、それ以外はみんなのもの	単著	2018年6月	Web春秋(春秋社)	—	約9000字	
18	小川さやか	[連載原稿]チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第7回シェアリング経済を支える「TRUST」	単著	2018年7月	Web春秋(春秋社)	—	約9000字	
19	小川さやか	[書評]上半期の収穫	単著	2018年7月	週刊読書人7月27日号	—	約400字	
20	小川さやか	[連載原稿]チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第8回商売は後からついてくる—「その人らしさ」でつながるネットワーク	単著	2018年8月	Web春秋(春秋社)	—	約9000字	
21	小川さやか	[インタビュー広報記事]	その他	2018年8月	RADIET(9号)	—	10-11	
22	小川さやか	[小論]ついででの親切が築き上げるセーフティネット	単著	2018年9月	OTジャーナル(52巻11号)	—		

23	小川さやか	[連載原稿] チョンキンマンションのボスは知っている—第9回成功する者、転落する者	単著	2018年9月	Web 春秋 (春秋社)	—	約9000字	
24	小川さやか	[小論] 自生的秩序のつくりかた—香港のタンザニア人によるSNSを通じた交易 (特集アナキズムとキリスト教)	単著	2018年10月	福音と宗教	—	24-29	
25	小川さやか	[論文] 「他動力」—香港のタンザニア人たちの多動力	単著	2018年10月	現代思想 (青土社) (2018年巻11月号)	—	148-158	
26	小川さやか	インタビュー記事] 文化人類学者・小川さやかさんに聞く。タンザニア流、「借り」を回し合う経済	その他	2018年10月	ソトコト (木楽舎) (2018年巻11月号)	—		
27	小川さやか	【小論】タンザニアの気づいてもらえる仕組み	単著	2018年11月	公研(2018年巻11月号)	—	14-15	
28	小川さやか	[連載原稿] チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第10回 昼間のビジネス、夜のビジネス	単著	2018年11月	Web 春秋 (春秋社)	—	約9000字	
29	小川さやか	[連載原稿] チョンキンマンションのボスは知っている—第11回 人生は商機とともに	単著	2018年11月	Web 春秋 (春秋社)	—	約9000字	
30	小川さやか	[連載原稿] チョンキンマンションのボスは知っている 最終回 チョンキンマンションのボスは知っている	単著	2019年1月	Web 春秋 (春秋社)	—	約9000字	
31	小川さやか	香港の華麗なる全身商売人 (特集: Self-Fashioning from Asia あらかじめ決められない流儀(スタイル)へ)	単著	2019年3月	STUDIO VOICE(414巻)	—	130-131	
32	桜井 政成	(書評) 米澤 旦 著 『社会的企業への新しい見方—社会政策のなかのサードセクター』	単著	2018年6月	大原社会問題研究所雑誌(716号)	—	71-75	
33	桜井 政成	(書評) Aya Okada, Yu Ishida, Takako Nakajima, Yasuhiko Kotagiri (著) 『The State of Nonprofit Sector Research in Japan: A Literature Review』	単著	2018年6月	ノンプロフィット・レビュー (18巻1号)	—	32	
34	桜井 政成	ボランティアマネジメントとは何か	単著	2018年10月	更生保護(69巻10号)	—	12-17	
35	桜井 政成	災害ボランティアとは誰か ~その参加	単著	2018年11月	政策科学(26巻1号)	—	1-12	

		志向と階層性～						
36	桜井 政成	農山村部における移住者と地域住民の交流状況の比較・分析: 京都府南丹市でのアンケート調査から	共著	2019年3月	R-RDIRI Forum -Working Paper-(2号)	滝村亮佑	—	
37	サトウ タツヤ	マーガレット・ナムブルグ 心理学史の中の女性たち第7回	単著	2018年4月	心理学ワールド(81号)	—	29	
38	サトウ タツヤ	文化と記号と心理学	その他	2018年6月	対人援助学マガジン(33号)	—	108-117	
39	サトウ タツヤ	Wilhelm Wundt in Sendai “ - Zur Geschichte der Psychologie in Japan	共著	2018年7月	Psychologische Rundschau(69巻)	Uwe Wolfradt	169-169	
40	サトウ タツヤ	最終回に紹介したい女性心理学者たち 心理学史の中の女性たち第8回	単著	2018年7月	心理学ワールド(82号)	—	29	
41	サトウ タツヤ	ボランティアと連携した学級復帰の支援体制づくり——全日制単位制高校におけるフィールドワーク	共著	2018年9月	教育心理学研究(66巻)	神崎真実	241-258	
42	サトウ タツヤ	[心理学史 諸国探訪] 国際心理学会の提唱者オコロピッツ (ポーランド)	単著	2018年10月	心理学ワールド(83号)	—	29	
43	サトウ タツヤ	取調べ録画動画の提示方法が自白の任意性判断に及ぼす影響 —日本独自の二画面同時提示方式と撮影焦点の観点から—	共著	2018年10月	法と心理(18巻)	中田友貴・若林宏輔	70-85	
44	サトウ タツヤ	ナラティブの意義と可能性	単著	2018年12月	言語文化教育研究(16巻)	—	2-11	
45	サトウ タツヤ	質的データの可視化支援ツール 「NARREX」の開発—KJ法経由のTEMとそれをサポートする方法について	共著	2019年1月	立命館人間科学研究(38巻)	斎藤進也・安田裕子・隅本雅友・菅井育子	111-120	
46	サトウ タツヤ	[心理学史 諸国探訪] インド	単著	2019年1月	心理学ワールド(84号)	—	29	
47	サトウ タツヤ	万歳三唱令 文書流言か文化創造か 対人援助学&心理学の縦横無尽 (24)	単著	2019年3月	対人援助学マガジン(36号)	—	113-118	
48	千葉 雅也	平成最後のクィア・セオリー	単著	2018年11月	新潮(115巻12号)	—	124-141	
49	千葉 雅也	[インタビュー] くだらない企画に内包されたLGBTと国家の大きな問題	単著	2018年12月	中央公論(132巻12号)	—	113-119	
50	千葉 雅也	[討議] 思弁的実在論「以後」とトランプ時代の諸問題	共著	2019年1月	現代思想(47巻1号)	小泉 義之, 仲山 ひふみ	8-33	
51	千葉 雅也	平成の身体	単著	2019年3月	文學界(73巻3号)	—	196-206	

52	DE ANTONI Andrea	Steps to an Ecology of Spirits: Comparing Feelings of More-than-Human, Immaterial Meshworks?	単著	2018年	NatureCulture (More-than-Human Worlds: A NatureCulture Blog Series)(Online 巻)	—	—	
53	DE ANTONI Andrea	Down in a Hole: Dark tourism, Haunted Places as Affective Meshworks, and the Obliteration of Korean Labourers in Contemporary Kyoto.	単著	2019年	Japan Review, Milne, D., and E. Andrew (eds.). Special Issue on War, Tourism, and Modern Japan.(33 巻)	—	271-297	
54	DE ANTONI Andrea	Feeling (with) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field - Introduction	共著	2019年	Asian Anthropology, Special Issue Feeling (with) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field. Special	with Emma Cook	—	
55	富永 京子	若者のライフスタイル運動との連携の可能性——欧州の消費者運動からの示唆	単著	2019年2月	まちと暮らし研究(28 巻)	—	60-67	
56	長瀬 修	合理的配慮—起源、展開、射程	単著	2018年5月	障害学研究(13 号)	—	96-109	
57	長瀬 修	障害者	単著	2018年6月	大学辞典 (児玉善人他編)	—	498	
58	長瀬 修	バリアフリー	単著	2018年6月	『大学事典』(児玉善人他編)	—	748	
59	長瀬 修	障害者権利条約中華民国(台湾) 初回報告 総括所見 (中)	単著	2018年6月	福祉労働(159 号)	—	154-160	
60	長瀬 修	障害者権利条約中華民国(台湾) 初回報告 総括所見 (下)	単著	2018年9月	福祉労働(160 号)	—	147-152	
61	中村 正	暴力は多様な顔をして関係性に宿ることを読み解く	単著	2018年4月	家族療法研究(35 巻 1 号)	—	59-64	
62	中村 正	臨床社会学の方法 (21)生活世界—街の人びとの生きられた世界—	単著	2018年6月	対人援助学マガジン(9 巻 1 号)	—	22-31	
63	中村 正	妄想=暴走する男たち—ハラスメントの要の位置にある男性性ジェンダー	単著	2018年9月	臨床心理学(18 巻 5 号)	—	561-565	
64	中村 正	臨床社会学の方法 (22)暴力の遍在と意識化	単著	2018年9月	対人援助学マガジン(9 巻 2 号)	—	23-32	
65	中村 正	つながりすぎないこと	単著	2018年10月	青少年問題(65 巻秋季(第672) 号)	—	2-9	
66	中村 正	治療的司法・正義の理論のために—ケアとジャスティスの統合をとおした問題解決のための理論・実践・制度	単著	2018年10月	法と心理(18 巻 1 号)	—	1-3, 6-13	
67	中村 正	親しい関係性にやどる暴力について—DVを中心に—	単著	2018年12月	人権と部落問題(70 巻 12 号)	—	38-45	

68	中村 正	臨床社会学の方法 (23)暴力を認めるが 加害を認めない人々 との対話	単著	2018年12 月	対人援助学マガジン(9巻3号)	—	21-30	
69	中村 正	暴力の遍在と偏在- その男の暴力なの か、それとも男たち の暴力性なのか-	単著	2019年2月	現代思想(47巻2号)	—	64-76	
70	中村 正	臨床社会学の方法 (24)暴力を乗り越え る	単著	2019年3月	対人援助学マガジン(9巻4号)	—	20-29	
71	松原 洋子	「方法論としての科 学史を活かした大学 院教育：学際的大学 院における院生指導 の実践から」	単著	2018年4月	『科学史研究』(57巻)	—	47-48	
72	松原 洋子	「優生保護法の歴史 が問いかけるもの」	単著	2018年6月	『診療研究』(538号)	—	15-19	
73	松原 洋子	「生命倫理の歩き方 を探る-『生命倫理 のレポート・論文を 書く』刊行に寄せて	単著	2018年7月	UP(549号)	—	1-4	
74	松原 洋子	「優生保護法の土台 となった「優生学」と は-立命館大学 松 原洋子教授に聞く」 (インタビュー)	その他	2018年11 月	『民医連医療』(555号)	『民医連医療』編 集部	34-37	
75	美馬 達哉	「リスクの名の下 に」	単著	2018年11 月	科学技術社会論研究(15号)	—	66-77	
76	美馬 達哉	DSM 的理性とその 不満	単著	2018年	保健医療社会学論集(28巻2号)	—	54-64	
77	美馬 達哉	Anodal transcranial patterned stimulation of the motor cortex during gait can induce activity-dependent corticospinal plasticity to alter human gait.	共著	2018年	PLoS ONE 13(12): e0208691(13巻12号)	Koganemaru S, Mikami Y, Maizawa H, Matsuhashi, M, Ikeda S, Ikoma K., Mima T.	e0208691	
78	美馬 達哉	Neurofeedback Control of the Human GABAergic System Using Non- invasive Brain Stimulation.	共著	2018年	Neuroscience(380巻)	Koganemaru S, Mikami Y, Maizawa H, Ikeda S, Ikoma K, Mima T.	38-48	
79	美馬 達哉	「ストレスチェック と生権力」	単著	2019年2月	福音と世界	—	18-23	
80	美馬 達哉	「リスク論再考」	単著	2019年3月	TASC Monthly No.519、2019 年3月1日 p.p.20-32(519号)	—	20-32	
81	美馬 達哉	Transcranial Direct Current Stimulation Improves Pusher Phenomenon.	共著	2019年	Case Rep Neurol(11号)	Yamaguchi T, *Satow T, Komuro T, Mima T.	61-65	
82	村本 邦子	周辺からの記憶 19： 2015年夏の福島で	単著	2018年6月	対人援助学マガジン(9巻1号)	—	178-197	
83	村本 邦子	周辺からの記憶 20： 2015年むつ・多賀城・ 福島	単著	2018年9月	対人援助学マガジン(9巻2号)	—	174-203	
84	村本 邦子	周辺からの記憶 21： 2015年福島	単著	2018年12 月	対人援助学マガジン(9巻3号)	—	141-152	
85	村本 邦子	周辺からの記憶 22： 未来のための思い出	単著	2019年3月	対人援助学マガジン(9巻4号)	—	168-178	

		ココロかさなるプロジェクト						
86	安田 裕子	質的データの可視化支援ツール「NARREX」の開発—KJ法経由のTEMとそれをサポートする方法について	共著	2019年1月	立命館人間科学研究(38号)	斎藤進也・隅本雅友・菅井育子・サトウタツヤ	111-120	
87	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブとは何か	単著	2018年	N:ナラティブとケア(9巻)		2-10	
88	やまだ ようこ	糖尿病患者のビジュアル・ナラティブ	共著	2018年	N:ナラティブとケア(9巻)	山田千積	11-20	
89	やまだ ようこ	透析患者のビジュアル・ナラティブ	共著	2018年	N:ナラティブとケア(9巻)	菅波澄治	21-29	
90	やまだ ようこ	しなやかな復活力(書評)	単著	2018年	質的心理学研究(17巻)	—	235-236	
91	やまだ ようこ	喪失と巡礼—宮澤賢治と村上春樹のナラティブ	単著	2018年	身心変容技法(7巻)	—	87-98	
92	渡辺 克典	話せたり話せなかったりすることを支援したりしなかったりすることについて考える	単著	2018年5月	支援(8巻)	—	—	
93	渡辺 克典	書評/矢吹康夫著『私がアルビノについて調べ考えて書いた本—当事者から始める社会学』	単著	2018年11月	障害学研究(14巻)	—	—	
94	渡辺 克典	特集趣旨	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	—	37-39	
95	渡辺 克典	制度編成とアーカイヴィングメソッド解題	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	—	181-182	
96	渡辺 克典	制度編成研究と社会運動メディア・アーカイヴィングの架橋	単著	2019年3月	立命館生存学研究(2巻)	—	213-217	
97	櫻井 悟史	障害者の移動の自由とユニバーサルツーリズムの歴史のために—障害者総合情報ネットワーク所蔵資料の活用方法の一例	単著	2019年3月	立命館大学生存学研究センター、『立命館生存学研究』(2号)	—	231-235	
98	有馬 斉	書評:加藤泰史編『尊厳概念のダイナミズム』	単著	2018年5月	図書新聞	—	1	
99	加藤 有希子	「毒から抗鬱剤へ—毒と悪意のない世界は可能か、アートから考える」	単著	2019年3月	『Poison Rouge』、京都大学こころの未来研究センター	吉岡洋編・吉岡洋、大久保美紀、加藤有希子、小澤京子	42-65	
100	金城 美幸	「歴史認識論争の同時性を検討するために—イスラエルと日本」	単著	2018年5月	青土社、『現代思想』	—	162-177	
101	金城 美幸	「パレスチナ民衆との新たな連帯のために」	単著	2018年11月	新教出版社『福音と世界』	—	40-43	
102	金城 美幸	「委任統治下パレスチナにおける「民族対立」創出の背景—シオニズム批判の理論的整理—」	単著	2018年12月	日本ユダヤ学会、『ユダヤ・イスラエル研究』	—	60-72	

103	小宅 理沙	多文化の子どもの母親が保育者に求める配慮	共著	2018年	社会福祉科学研究 第7号	中典子	99-106	
104	小宅 理沙	ムスリム家庭の母親からみた日本の保育・教育施設の行事に対するとらえ方	共著	2018年	社会福祉科学研究 第7号	中典子	83-89	
105	小宅 理沙	ムスリム家庭に対する子育て支援とは	共著	2018年	中国学園大学子ども学部研究論文集 第2巻第1号	中典子・安田誠人	55-64	
106	小宅 理沙	外国につながる子どもが生活する家庭に対する子育て支援とは	共著	2018年	中国学園大学子ども学部研究論文集 第2巻第1号	中典子・安田誠人	pp.65-74	
107	小宅 理沙	ムスリム家庭の子ども・子育て支援の充実に向けて保育者が把握すべきこと	共著	2018年	地域福祉サイエンス第5号	中典子	pp.137-146	
108	小宅 理沙	ムスリム家庭の子育て支援の充実に向けて保育者が理解する必要がある母親の思い	共著	2019年	幼児教育文化研究 第4号	安田誠人・中典子		
109	孫 美幸	ケアリングの視点を取り入れた多文化共生教育 学びの環境が厳しい子どもたちとともに (実践報告)	単著	2019年3月	日本ホリスティック教育/ケア学会『ホリスティック教育/ケア研究第22号』	—	87-100	
110	高橋 涼子	障害者政策におけるNPO・NGOのアドボカシーに関する検証と課題	単著	2018年9月	北陵館、地域ケアリング(20巻10号)	—	59-61	
111	高橋 涼子	Finding a Political Voice: Comparative Study on the Participation of Disabled People in the Welfare Policymaking of Asian Countries.	単著	2019年3月	Bulletin of the Faculty of Human Sciences, Kanazawa University (vol.11)	—	53-72	
112	田中 壮泰	(翻訳)メレフ・ラヴィッチ「夜明けの皇帝」	共訳	2018年11月	神戸・ユダヤ文化研究会『ナマール』第23号	西村木綿・野村真理・田中壮泰訳	75-81	
113	箱田 徹	ミシェル・フーコーとキリスト教:「救い」をめぐるたたかい	単著	2019	『福音と世界』77巻2号	—	6-11	
114	細谷 幸子	「イランにおける第三者がかかわる生殖補助技術の活用に関する倫理的議論と実践」	単著	2018年5月	『東洋学術研究』180号(57巻1号)	—	117-134	
115	細谷 幸子	「株本千鶴著『ホスピスで死にゆくということ- 日韓比較から見る医療化現象』」	単著	2018年9月	『アジア経済』59(3)	—	45-48	
116	松波めぐみ	差別を許さない社会をつくりだすために～京都府の条例づくりの経験から～	単著	2019年3月	「リハビリテーション」鉄道身障者福祉協会、通関612号	—	24-27	
117	松波めぐみ	公正な社会を阻んでいるものは何か 一障害者差別解消法と合理的配慮概念を手掛かりに-	単著	2019年3月	紀要『立命館生存学研究』第2号	—	69-111	

118	村上 潔	「[連載] 都市空間と自律的文化へのアプローチ—マンチェスター・ジン・シーン・レポート(全4回) 第4回: ソーシャル・スペース〈バルチザン〉から見るジンとスペースの潜在力」	単著	2018年4月	Web マガジン『AMeeT』(一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団)			*Web 掲載	
119	伊東 香純	ヨーロッパの精神障害者の組織の発足の過程	単著	2019年3月	立命館生存学研究 (2号)	—		203-211	査読有
120	伊東 香純	アジア・アフリカ・南米地域の参加を巡って—精神障害者の世界組織の現代史	単著	2019年	医学史研究 (100号)	—		101-116	査読有
121	伊東 香純	障害者に関する欠格条項の見直しの過程—障害者総合情報ネットワーク所蔵資料の活用法の一例	単著	2019年3月	立命館生存学研究 (2号)	—		225-229	査読有
122	今里 基	「帰属するエスニシティを徹底化しない戦術」の考察—日本在住韓国系ニューカマー二世代の事例から—	単著	2019年1月	立命館大学人間科学研究所、立命館人間科学研究 (38)	—		15-29	査読有
123	高 雅郁	「我們的事, 我們要參與—紀錄支持智能挑戰者參與國際身心障礙者權利公約易讀化的歷程」(繁体中文)	共著	2018年6月	衛生福利部社会及家庭署, 『社區發展季刊』 Vol.162	林惠芳・翁亞寧・高雅郁		pp.161-168	
124	高 雅郁	「易讀運動—心智障礙者邁向自立生活的第一步」(繁体中文)	共著	2018年12月	衛生福利部社会及家庭署, 『社區發展季刊』 Vol.164	林惠芳・翁亞寧・高雅郁		pp. 47-53	
125	塩野 麻子	障害者総合情報ネットワークのアーカイヴィング・メソッド	単著	2019年3月	『立命館生存学研究』第2巻	—		219-223	査読有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	立岩 真也	長い停滞を脱する	2018年12月	第33回国際障害者年連続シンポジウム・筋ジス病棟と地域生活の今とこれから	—
2	立岩 真也	早川一光の後で	2018年12月	医師早川一光を語る会—西陣の医療から総合人間学へ	—
3	立岩 真也	生存学研究センターによるアーカイヴィング	2018年12月	公開シンポジウム 第1回 「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」	—
4	立岩 真也	障害学とリハビリテーション学との対話、へのコメント	2018年11月	障害学会第15回大会	—
5	立岩 真也	韓国障害学会の皆さんへ—私たちの経験、そしてこれから	2018年11月	韓国障害学会大会	—
6	立岩 真也	日本の精神障害者福祉政策について	2018年11月	障害者政策博覧会	—
7	立岩 真也	"On "Unhappy" vs. "No, we are happy"?"	2018年10月	East Asia Disability Studies Forum 2018	—
8	立岩 真也	"Why disability studies?"	2018年10月	East Asia Disability Studies Forum 2018	—
9	立岩 真也	障害者差別とハラスメント	2018年6月	シンポジウム「大学におけるハラスメ	—

				ントとダイバーシティ」	
10	立岩 真也	公開インタビュー 井上武史(メインストリーム協会)×立岩真也	2018年5月	連続セミナー「障害/社会」第12回「コスタリカ障害者自立推進法と当事者活動」	—
11	大谷いづみ	「死を選ぶ権利」について考えておきたいこと	2019年2月	生存学研究センター公開シンポジウム「安楽死のリアル——一つではない「良い死」	—
12	大谷いづみ	「問い書き対話するいとなみ」と「障害を持つ女性」という経験	2019年2月	2018年度 日本医学哲学・倫理学会 公開講座「障害のなかで生きること——「障害があることは不幸」なのか」	—
13	大谷いづみ	安楽死・尊厳死論の系譜と障害者殺傷事件	2019年3月	韓国障害学会定例会	—
14	小川さやか	[招待講演]その日暮らしの生き方と働き方	2018年4月	千葉県生産性本部主催「トップマネジメントクラブ」4月例会	—
15	小川さやか	[コメンテーター]松村圭一郎氏「アフリカの「分配のモラルティ」を語るということ」を受けて	2018年4月	京都人類学研究会4月例会	—
16	小川さやか	[招待講演]タンザニアにおけるオルタナティブな路上空間の創出	2018年4月	56 設計社主催『誰のものでもある場所の現在—アフリカ、ジャカルタ、京都から考える』	—
17	小川さやか	[パネリスト]自分の言語で人類学すること(日本文化人類学会・韓国文化人類学会共催連続セッション)	2018年6月	日本文化人類学会第52回学術大会	—
18	小川さやか	[国内学会]被調査者のオートエスノグラフィーの参与する事—SNSで紡がれる香港在住のタンザニア人たちのライフヒストリーを事例に	2018年6月	日本文化人類学会第52回学術大会	—
19	小川さやか	[国際学会]自動翻訳ツールにできないこと—自言語による人類学の可能性	2018年6月	韓国文化人類学会2018年春季大会	—
20	小川さやか	[特別講師]その日暮らしの人類学—不確実な世界を生き抜く知恵と共同性	2018年8月	東進ゼミナール主催『大学学部研究会』	—
21	小川さやか	[講演]香港に乗り出したタンザニア人によるシェアリング経済	2018年8月	京都精華大学主催『連続講座 現代アフリカのパワーと可能性を知る～ビジネスの視点から～』	—
22	小川さやか	[招待講演]The Logic of "Open reciprocity": Case study on the Sharing Economy and "Platform-like Civil Society" among Tanzanians in Hong Kong	2018年9月	Department of Anthropology, Yonsei University	—
23	小川さやか	[招待講演]When the auto-ethnography of anthropologist intersect with the auto-ethnography of investigator: A case study of SNS of Tanzanians in Hong Kong	2018年9月	Seoul National University	—
24	小川さやか	[招待講演]信頼とずる賢さ—タンザニアにおける異質な他者とともに生きる技法	2018年10月	平成30年度滋賀県更生保護事業関係者顕彰式典	—
25	小川さやか	[招待講演]未来の人類社会のあり方—タンザニア商人の生き方に学ぶ	2018年11月	世界思想社教学社 創業70周年記念パーティー	—
26	小川さやか	[鼎談]松尾匡×小川さやか×岸政彦「楽しい反緊縮」	2018年11月	先端研公式イベント	松尾匡, 岸政彦

27	小川さやか	[シンポジウム]趣旨説明	2018年12月	現在・未来の経済社会に向けた人類学的知の再構築—ブロックチェーンからシェアリング経済まで—	—
28	小川さやか	[鼎談]「ずる賢いのは悪い事?—文化人類学と芸術から学ぶ不確実な世界でのサヴァイバル」	2019年1月	金沢21世紀美術館アートスクール「魔法のコスチューム」特別企画こたつ座談会	椿昇, シロくま先生
29	小川さやか	【招待講演】"Sharing economy" and "Platform-civil society" among Tanzanians in Hong Kong	2019年1月	経済発展研究会 (一橋大学経済研究所)	—
30	小川さやか	【鼎談】大澤聡・岸政彦・小川さやか『対話的教養』—分野横断を越えた知的基盤とは何か—	2019年1月	立命館大学先端総合学術研究科「パートナーシップ委員会」	大澤聡, 岸政彦
31	桜井 政成	災害ボランティアは足りないのか—水害被災地ボランティア受け入れのトレンド分析—	2018年6月	日本NPO学会 第20回年次大会	—
32	桜井 政成	支援する対象としての“LGBT コミュニティ”の出現—トロント市のケースから—	2018年6月	福祉社会学会第16回大会	—
33	桜井 政成	Who is disaster volunteer? Activity principles and the individual characters in Japan.	2018年7月	the 13th International conference of the International Society for Third Sector Research	—
34	桜井 政成	Why Did the New NPO Corporations Diffuse? Reason for the Increasing Social Economy Organizations in Japan	2019年1月	Seoul National University Asia Center Special Lecture	—
35	桜井 政成	災害ボランティアセンターにおける需給調整課題—大阪北部地震における茨木市議事例—	2019年3月	第5回 震災問題研究交流会	佐村河内力
36	サトウ タツヤ	「大学生のやる気はなぜなくなるのか?」複線径路等至性モデリング (TEM) による検討 —マツダ株式会社・立命館大学による共同研究「質的研究アナリスト体験型育成プログラムの開発」による TEM 院生版 PBL(A 班) からの学び—	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	田中文昭・張曉紅・浅瀬万里子・安田裕子・神崎真実・土元哲平・菅井育子・隅本雅友
37	サトウ タツヤ	大学生のやる気はなぜなくなるのか? どのようにしてなくなるようにできるのか? —TEA による検討—	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	岡野雄気・若杉美穂・菱ヶ江恵子・安田裕子・神崎真実・土元哲平・菅井育子・隅本雅友
38	サトウ タツヤ	自傷行為を行う生徒と関わる担任教師に対する支援のあり方—複線径路・等至性モデリング (TEM) による分析	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	守屋彩加・川本静香
39	サトウ タツヤ	避難区域外での行動選択と支援に関する研究—福島県の住民の語りから—	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	有澤清香・川本静香
40	サトウ タツヤ	Dialogue with "Voices of the Analysis" in Transition-The Perspective from Multi-	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	Tsuchimoto, T

		voicedness			
41	サトウ タツヤ	Fifteen years of Trajectory Equifinality Approach	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	—
42	DE ANTONI Andrea	「憑依と除霊における感覚の比較—現代中部イタリアの悪魔祓いと現代日本三好市山城町賢犬神社の御祈禱を事例に」	2018年8月	医療文化研究会	—
43	DE ANTONI Andrea	Panel Organizer (with Emma Cook): Skills of Feeling with the World: Affective Imagination, Embodied Memories and Materiality in the Emergence of Sociality.	2018年9月	Association of Social Anthropologists of the UK and Commonwealth (ASA)	—
44	DE ANTONI Andrea	She Talks to Angels: Spirit Becomings, Embodied Memories and Affective Imagination Skills in Catholic Exorcism in Contemporary Italy	2018年9月	Association of Social Anthropologists of the UK and Commonwealth (ASA)	—
45	DE ANTONI Andrea	The Bodies They Are a Changin': From Symbolic Interpretations of Spirits, Liminality and Pollution, to Perceptions and Feelings	2018年10月	Itineraries of the Sacred: Reassessing the Field: The Study of Japanese Religion and Thought in the 21st Century	—
46	DE ANTONI Andrea	Where I End and You Begin: Steps to Comparing Entanglements of Spirit Possession and Biomedicine	2018年12月	Embodying Modern "Scientific" Medicine and "Religious/Spiritual" Healing: A Comparative Perspective on Non-Voluntary Spirit Possession and Exorcism	—
47	DE ANTONI Andrea	外国人研究者がみた日本の人権	2018年12月	京都人権文化講座	—
48	DE ANTONI Andrea	スペクターのスペクトラム—現代イタリアと日本における精霊と憑依に関する体験・感覚・情動の比較に向かって	2019年1月	京都人類学研究会	—
49	富永 京子	Protest Tourism: Solidarity and Protest of Young Japanese in the Era of Individualization	2018年5月	University of Vienna Public Seminar	—
50	富永 京子	Institutionalization Changes the Movement Culture: The Case of Election Campaign Activists in Japan	2018年5月	International Conference on Multicultural Democracy	—
51	富永 京子	研究におけるインタビューの技法と倫理	2018年5月	日本選挙学会大会 ラウンドテーブル	—
52	富永 京子	Affection and Mobile Media: The Case of Youth Movement in Japan	2018年6月	Cultural Typhoon 2008	—
53	富永 京子	『社会運動と若者』書評会	2018年6月	第70回・社会文化論研究会	—
54	長瀬 修	基調講演「障害と多文化主義」	2018年5月	2018 国際学会「多文化時代の相互文化主義観点—体系と生活世界—」	—
55	長瀬 修	相模原事件と障害者の地域生活	2018年5月	国際育成会連盟世界会議「ヘイトから守る」分科会	—

56	長瀬 修	障害者権利条約第2回審査とパラグアイ	2018年6月	障害者権利条約パラグアイワークショップ	—
57	長瀬 修	ラオスの障害者権利条約初回審査	2018年8月	Workshop for the CRPD Initial Review for Lao PDR for 2020	—
58	長瀬 修	障害者権利条約第30条、贅沢か、生きる意味か - 国際的人権における文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの権利の展開	2018年10月	障害学国際セミナー2018	—
59	中村 正	加害者臨床とパーソナリティ研究の対話	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	—
60	中村 正	性暴力加害者をなくすための「教育」からみた支援「ジャスティスクライアント」とともに	2018年9月	第38回日本性科学学会学術集会	—
61	中村 正	男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その7)- 脱男性性をめぐるラビリンス(迷宮)-	2018年11月	対人援助学会第10回大会	國友万裕
62	中村 正	企画ワークショップIII「被災と復興の証人(witness)になる」とはどういうことだったか? ~「東日本・家族応援プロジェクト」の活動を通して「記憶の多様なかたち~震災・災害の表象論から」	2018年11月	対人援助学会第10回大会	—
63	松原 洋子	「引揚医療と民族優生-国策としての人工妊娠中絶」	2018年5月	立命館大学コア研究センター 第95回 月例研究会	—
64	松原 洋子	優生保護法下での優生学的適応による人工妊娠中絶 - 地区優生保護審査会の役割を中心に	2018年5月	日本科学史学会第65回年会	—
65	松原 洋子	「優生保護法の批判的再発見」	2018年12月	日本生命倫理学会第30回年次大会、公募ワークショップII「優生保護法下の強制不妊手術と生命倫理」	—
66	村本 邦子	被災から防災へ、ローカルティからネットワークへ~『災害時相談対応ハンドブック』作成と防災研修の経験から	2018年11月	第10回対人援助学会	—
67	村本 邦子	「被災と復興の証人(witness)になる」とはどういうことだったか? ~「東日本・家族応援プロジェクト」の活動を通して「証人になること」と倫理	2018年11月	第10回対人援助学会	—
68	村本 邦子	災禍を生き抜く女たち~原発事故によって避難を強いられたAさんのライフストーリー	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	—
69	村本 邦子	「土地の力」と災害復興~被災地のエスノグラフィーを通して 山元町復興による民話・伝承の力	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	—
70	望月 茂徳	踏み台昇降運動に着目した高齢者用リハビリテーションゲームの開発	2018年9月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2018 論文集	鄭 思芸, 鈴木 岳海
71	望月 茂徳	物体検出結果に基づく凸包モデルを用いた音楽の自動生成	2019年3月	インタラクティブ2019 第23回一般社団法人情報処理学会シンポジウム	長田 悠希
72	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (TEA) - 過程と発生をと	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	—

		らえる質的研究法			
73	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成—人間性（人格性）成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探求へ向けて	2018年8月	日本パーソナリティ心理学会第27回大会	矢藤優子・サトウタツヤ・岡本尚子・鈴木華子・川本静香・神崎真実・中田友貴・肥後克己・孫怡・妹尾麻美
74	安田 裕子	教育における文化的視点の重要性 — Trajectory Equifinality Approach (TEA) による分析	2018年9月	日本教育心理学会第60回総会	柁木史子・豊田香・サトウタツヤ
75	安田 裕子	人の生の歩みとその可能性を拓く—潜在的な分岐を可視化・実現する、文化心理学に依拠する質的方法論 TEA	2018年9月	日本心理学会第82回大会	サトウタツヤ・伊東美智子・北出慶子
76	安田 裕子	TEM (複線径路等至性モデリング) を学ぶ	2018年9月	日本心理学会第82回大会	サトウタツヤ
77	安田 裕子	虐待を受けた子どもの包括的支援を考える「捜査とケア」二者択一から、両立へ	2018年10月	法と心理学会第19回大会	田中晶子・上宮愛・片岡笑美子・鈴木聡・西部智子・仲真紀子
78	安田 裕子	妊娠期女性の職業キャリア展望	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	妹尾麻美・三品拓人
79	安田 裕子	家庭内において妻が夫に対して担っている「感覚的活動」	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	三品拓人・妹尾麻美
80	安田 裕子	「大学生のやる気はなぜなくなるのか？」複線径路等至性モデリング (TEM) による検討—マツダ株式会社・立命館大学による共同研究「質的研究アナリスト育成プログラムの開発」による体験型プログラム TEM 院生版 PBL からの学び	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	田中文昭・張曉紅・浅瀬万里子・土元哲平・神崎真実・菅井育子・隅本雅友・サトウタツヤ
81	安田 裕子	大学生のやる気はなぜなくなるのか？どのようにしてなくなるようにできるのか？—TEA による検討	2018年11月	日本質的心理学会第15回大会	岡野雄気・若杉美穂・菱ヶ江恵子・土元哲平・神崎真実・菅井育子・隅本雅友・サトウタツヤ
82	安田 裕子	これからの協同面接の在り方を子どもの視点で考える—子どもが話してよかった経験になるように	2018年12月	日本子ども虐待防止学会第24回学術集会おかやま大会	根ヶ山裕子・大谷基恵・飛田桂・上宮愛（・田中晶子・安田裕子）・久保健二・岩佐嘉彦
83	安田 裕子	TEA (複線径路等至性アプローチ) の可能性—「発達」と「文化」をとらえるということ (講演)	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第1回 TEA 国際学会)	—
84	安田 裕子	記念シンポジウム TEA (複線径路等至性アプローチ) が切り開く未来 (司会)	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第1回 TEA 国際学会)	Jaan Valsiner・大川聡子・北出慶子・香曾我部琢・森直久・森岡正芳・滑田明暢・サトウタツヤ
85	安田 裕子	人生径路・発達の複線性と文化をとらえる TEA (複線径路等至性アプローチ) (講習会講師)	2019年3月	The 1st Transnational Meeting on TEA (第1回 TEA 国際学会)	福田茉莉
86	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会	矢藤優子・孫怡・岡本尚子・川本静香・鈴木華子・板倉昭二
87	渡辺 克典	染谷莉奈子「障害者総合支援法以降の高齢期知的障害者家族—知的障害者家族における母親の“離れ難さ”」へのコメント	2018年9月	日本社会学理論学会第13回大会 修論フォーラム1	—

88	渡辺 克典	活動報告 障害女性の生きづらさに関する地域間比較	2019年2月	公開シンポジウム「人間科学と混合研究法の未来」(2018年度人間科学研究所年次総会)	土屋葉・河口尚子・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香・伊東香純
89	櫻井 悟史	混沌の盛り場・キャバレー——大阪料飲社交業界 100年史にむけて	2018年6月	カルチュラル・タイフーン 2018	—
90	櫻井 悟史	キャバレーで遊ぶ人々今昔	2018年8月	盛り場研究会	—
91	櫻井 悟史	『大阪キャバレー100年史——盛り場と社交の歴史社会学』中間報告	2018年11月	鳥井フェローシップ・サントリーフェローシップ中間報告会	—
92	櫻井 悟史	障害者総合情報ネットワークの『アーカイヴィング・メソッド』	2018年12月	公開シンポジウム 第1回「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」	—
93	安部 彰	独酌的倫理学	2018年6月	カルチュラルスタディーズ学会	—
94	安部 彰	生きて存るを学ぶ——ある先端研出身者の生存学	2018年7月	立命館大学先端総合学術研究科オープン交流会	—
95	有馬 斉	教育講演：医学研究における利益相反に関する基本的な考えかた	2018年4月	日本放射線医学学会	—
96	有馬 斉	機能障害者の生活満足度調査の結果から分かること	2019年2月	日本医学哲学倫理学会公開講座	—
97	太田 啓子	知的障害のある人とつくる合理的配慮研修—Social Relationの観点からの検討—	2018.8	日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会	森口弘美
98	太田 啓子	知的障害者の「関係性の変容としての自立」の検討—SCATによる関連要因の抽出から、「仕掛け」の提示へ—	2019.3	関西社会福祉学会	森口弘美
99	加藤 有希子	「ライリーとスーラ——21世紀を考えるヒント」	2018年4月	「ゆらぎ ブリジット・ライリーの絵画」展記念講演	—
100	加藤 有希子	「毒から抗鬱剤へ——新印象派、ライリー、毒と悪意のない世界へ？」	2018年9月	公開講座「芸術とく毒>」(京都大学こころの未来研究センター)	—
101	加藤 有希子	「生命と非生命のあいだで：児玉幸子の黒、ブリジット・ライリーのピンク」	2018年9月	シンポジウム『色彩×日本的感性×メディア』(埼玉大学人文社会科学研究所)、埼玉県立近代美術館	—
102	葛城 貞三	ALS 患者が地域で暮らし続けるために	2019年2月	第37回滋賀県社会福祉学会	—
103	金城 美幸	パレスチナ政治の分断と越境的暴力	2018年11月	越境暴力研究会	—
104	小宅 理沙	日本における児童の割礼と児童虐待	2018年12月	日本虐待防止学会	中典子
105	坂井めぐみ	指定質問	2019年1月11日	『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』書評会	—
106	坂井めぐみ	日本における脊髄損傷の医療史——「患者」の生成と変容	2018年12月15日	医学史研究会第2回総会	—
107	坂井めぐみ	脊髄損傷医療と患者の歴史——臨床試験に関与する患者の出現	2018年5月9日	細胞医療の時代 2018 シリーズ 第3回細胞医療への期待と規制	—
108	篠木 涼	ポストヒューマニティーズ状況における政府の芸術助成金の哲学に向けて	2019年3月	研究会「批判的ポストヒューマニズムの射程」(科研費基盤研究C「ポストヒューマニズムの時代における芸術学の再構築に向けた総合的研究」)	—
109	孫 美幸	沖縄の民話における「異人」たちと「多文化共生」日本社会における多文化共生教育への示唆	2018年6月	日本国際理解教育学会第28回研究大会	—
110	高橋 涼子	フィンランドの障がい者政策と当事者参画	2018年6月	内閣府平成30年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」	—

				事前研修会	
111	高橋 涼子	相模原障害者施設殺傷事件は、医療者（＝人間）に何を突きつけたか～障害者施策の歴史的背景について～	2018年6月	石川県保険医協会社会保障セミナー2018	—
112	高橋 涼子	Challenges Accompanying Deinstitutionalization in Japan after the Sagamihara Stabbings.	2018年8月	29 th Nordic Sociological Association Conference. (Aalborg University, Denmark)	—
113	高橋 涼子	Disabled people's organizations as agencies for the reform of disability policy and legislation in Asian countries.	2018年9月	Research Committee on Sociology of Law (ISA). (ISCTE: University Institute of Lisbon, Portugal)	—
114	高橋 涼子	Gaining Political Power: Comparative Study on the Empowerment of Disabled People.	2018年10月	The 14th Asia Pacific Sociological Association Conference. (Seisa University, Hakone, Japan)	—
115	高橋 涼子	脱施設化の課題：津久井やまゆり園の『再生』をめぐる	2018年10月	The 14th Asia Pacific Sociological Association Conference. (Seisa University, Hakone, Japan)	—
116	田中 壮泰	旅するイディシスト——メレフ・ラヴィッチ	2018年11月	東欧史研究会	—
117	田中 壮泰	ベルゲルソンと1920年代ベルリン——「逃亡者」とその背景	2018年9月	日本比較文学会	—
118	仲尾 謙二	自動車利用と交通政策について大きな流れの中で考える～MaaSやCASEをみとおして～	2019年1月	京都大学大学院工学研究科交通政策研究ユニット設立10周年記念フォーラム	—
119	西沢いづみ	「地域医療の温故知新」	2018年6月	医業経営研鑽会京都大会	—
120	西沢いづみ	「西陣の地域福祉」	2018年12月	京都文化創生機構「地域振興と地域福祉を考える」	—
121	細谷 幸子	「イランで病をもって生きる」	2018年6月	「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」公開シンポジウム	—
122	細谷 幸子	「中東の結婚・妊娠・出産の現状」	2019年2月	立命館大学国際言語文化研究所「ジェンダー研究会」、「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」	—
123	細谷 幸子	"Home Care and Women's Role"	2019年3月	Isfahan University of Medical Sciences, School of Nursing and Midwifery, and Sasakawa Peace Foundation "Palliative Care Seminar: With an Inter-professional Approach"	—
124	松波めぐみ	「障害のある先生」研究から見えてきたもの	2018年5月	関西大学人権問題研究所 研究学習会	—
125	村上 潔	「[講義]戦後日本の主婦/母は自らをどう捉え返してきたのか」	2018年5月	京都自由大学2018年度一般講座(於: 京都社会文化センター)	—
126	村上 潔	「[講義] ジン・カルチャーとわたし——出会い・関わりとその周辺にあるもの」	2018年6月	滋賀県立大学人間文化学部 2018年度前期科目「社会運動論」(担当: 大野光明) 第12回	—
127	村上 潔	「[トークセッション]オリムピックとジェントリフィケーション——ジェンダー・文化・アクティヴィズムの観点から」	2018年9月	『支援』トークセッション:2018秋(於: カフェ・ラバンデリア [Café★Lavandería])	佐藤由美子×村上潔(司会: 聖田香緒里)

128	村上 潔	「[トーク]女子文化としての『オリーブ』の位置づけ——消費・創造・フェミニズムの観点から」	2018年11月	《『オリーブ』閲覧室——乙女カルチャーを振り返る》(於:クロスリズム [Cross Rhythm])	—
129	村上 潔	「[レクチャー&ワークショップ] ジン・カルチャーの世界を知ろう！」	2018年12月	立命館宇治中学校・高等学校《WOWプログラム》	—
130	横田 陽子	「原子力災害に関わる知識——原賠法成立(1961年)前後を中心に」	2019年5月	日本科学史学会第66回年会	—
131	伊東 香純	医療保護入院の立法事実の検討——アジアの精神障害者の取り組みから	2018年12月	第61回日本病院・地域精神医学会総会	—
132	伊東 香純	インドネシアの精神障害者の社会運動における西洋的精神医療の位置づけ	2018年11月	障害学会第15回大会	—
133	伊東 香純	The Development of Movements of Persons with Psychosocial Disabilities in Africa: Focusing on its Relationship to Global Movements	2018年10月	障害学国際セミナー	—
134	伊東 香純	Report on Field Work of Grass-Roots Movements of (Ex-)Users and Survivors of Psychiatry in Europe	2019年2月	2018年度人間科学研究所年次総会	—
135	伊東 香純	障害女性の生きづらさに関する地域間比較	2019年2月	2018年度人間科学研究所年次総会	渡辺克典・土屋葉・河口尚子・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香
136	伊東 香純	障害者総合情報ネットワークのアーカイヴィング・メソッド	2018年12月	生存学研究センター公開シンポジウム「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」	櫻井悟史・塩野麻子
137	伊東 香純	インドネシアの精神障害者の暮らし	2018年5月	ポルク活動報告会2018+特別講演会	—
138	今里 基	「韓国ソウルの日本人コミュニティの変容をめぐる一考察:居住地の分散化と『脱領域化』に着目して」	2018年12月	第3回日本移民学会冬季研究大会	—
139	欧陽 珊珊	A Review of Japanese Literature on Disability and Sexual Minority	2019年3月	Workshop on Disability, Sexuality and Gender in Asia. Kathmandu.	—
140	高 雅郁	「障害者権利条約審査後の台湾」	2018年5月	立命館大学生存学センター連続セミナー『障害/社会』第11回	—
141	高 雅郁	「以日本の大學為例探討台灣在學校設立特例子公司之可能性」(繁体中文)	2018年5月	第九屆兩岸四地啓智服務研討會	—
142	高 雅郁	「改變, 從自我發聲開始: 智能障礙者參與自我倡議服務的成長歷程」(繁体中文)	2018年5月	第九屆兩岸四地啓智服務研討會	李婉萍・陳怡君・曾昱誠・張秀貞・林惠芳
143	高 雅郁	「知的障害者の情報保障——台湾の例」	2018年7月	第21回情報保障研究会	—
144	高 雅郁	“The Progress of Self-Advocacy in Taiwan as Seen from Discussions of Leisure Activity by People with an Intellectual Disability” (「知的障害者による余暇活動の議論にみた、台湾における『自我倡導』の進展」) (ポスター発表、英語)	2018年10月	The 9th East Asia Disability Studies Forum (EADSF) 2018 (障害学国際セミナー 2018)	—
145	高 雅郁	「意思伝達と自己決定の基礎——台湾における障害者	2018年11月	障害学会第15回大会	—

		権利条約分かりやすいバージョン作成について」(ポスター発表)			
146	塩野 麻子	戦前期日本の通俗医学における結核を巡る言説	2018年12月	第22回日本科学史学会西日本研究大会	—
147	塩野 麻子	障害者総合情報ネットワークのアーカイヴィング・メソッド	2018年12月	立命館大学生存学研究センター公開シンポジウム「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」	櫻井悟史・伊東香純
148	巽 美奈子	戦間期における「栄養」の受容—栄養学者の佐伯矩と都市中間層の女性に注目して—	2018年6月	第69回簡裁社会学会	—

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	医療社会学研究会 特別版 精神医学的処方を中心とする社会学	立命館大学 朱雀キャンパス	2018年4月	30名	医療社会学研究会
2	連続セミナー「障害/社会」第11回「障害者権利条約の報告と審査—台湾(中華民国) 政府審査とその経験」第12回「コスタリカ障害者自立推進法と当事者活動」	キャンパスプラザ 京都	2018年5月	50名	科研費・基盤研究(C)「東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会」、科研費・基盤研究(B)「病者障害者運動史研究」
3	公開シンポジウム 第1回「マイノリティ・アーカイブズの構築・研究・発信」	立命館大学 衣笠キャンパス	2018年12月	58名	なし
4	ワークショップ「東九条におけるさまざまな活動と関係—現在、これから」:立命館大学生存学研究センター 現代社会エスノグラフィ研究会 2018年度第1回企画	京都市地域多文化交流ネットワーク サロン	2019年1月		なし
5	『立命館生存学研究』第1号(2018年3月刊行)特集「一元から多元に広がる関係へ」合評会:立命館大学生存学研究センター 現代社会エスノグラフィ研究会 2018年度第2回企画	立命館大学衣笠キャンパス	2019年1月		なし
6	研究報告「韓国ソウルの在韓日本人コミュニティに関する一考察—地理的動態の変化を中心に—」:立命館大学生存学研究センター 現代社会エスノグラフィ研究会 2018年度第3回企画	京都市地域・多文化交流ネットワーク サロン	2019年1月		なし
7	安楽死のリアル 一つではない「良い死」	立命館大学 朱雀キャンパス	2019年2月	100名	立命館大学 先端総合学術研究科(後援)

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	立岩 真也	「生存学の企て」PV	JMOOK	2018年
2	立岩 真也	勉強する、研究する	立岩真也と千葉雅也における「読み書きそろばん」	2018年11月
3	立岩 真也	唯の生	みやぎアピール大行動	2018年9月
4	立岩 真也	重訪、なにそれ	重度訪問介護従業者養成研修	2018年9月
5	立岩 真也	ベーシックインカムについて	9条の心ネットワーク	2018年8月
6	立岩 真也	相模原障害者殺傷事件とはなんだったのか	PARC 自由学校	2018年6月
7	立岩 真也	ふつうのことを、ひとつずつ考える	立岩真也×岸政彦トークイベント スタンダードブックストア心斎橋	2018年6月
8	桜井 政成	日曜討論「前半:ニッポンの夏に何が… 後半:ボランティアを考える」出演	NHK	2018年8月26日
9	桜井 政成	「大阪北部地震 報告会」(茨木市)	茨木市社会福祉協議会主催 場所:茨木市福祉文化会館 文化ホール(5階)	2018年9月18日

10	桜井 政成	「災害に特化 NPO 誕生」(インタビュー記事)	毎日新聞 (全国版 2面)	2019年1月10日
11	千葉 雅也	[対談] 思弁的実在論と精神分析——現代の思想・病理・芸術をめぐって (千葉 雅也, 松本 卓也)	京都大学	2018年11月29日
12	千葉 雅也	[対談] 『意味がない無意味』(河出書房新社) 刊行記念 「現実と身体」千葉雅也×入不二基義トークイベント (千葉 雅也, 入不二基義)	青山ブックセンター本店	2018年12月1日
13	DE ANTONI Andrea	Main Convener of the Anthropology and Sociology Section at the European Association for Japanese Studies (EAJS) Conference		2017年8月30日 ~2018年9月2日
14	DE ANTONI Andrea	International Conference Embodying “Scientific” Medicine and “Religious/Spiritual” Healing: A Comparative Perspective on Non-Voluntary Spirit Possession and Exorcism - Oraganizer (with Francesco Piraino)	Giorgio Cini Foundation, Venice	2018年12月13日 ~2018年12月15日
15	富永 京子	時事ウオッチ	毎日新聞大阪本社版	2018年4月1日 ~2019年3月31日
16	富永 京子	主語は「私」デモの系譜——吉岡忍さんが見る べ平連と官邸前抗議	朝日新聞	2018年4月6日
17	富永 京子	日本人の“政治ざらい”と若者の社会運動	信毎セミナー	2018年4月24日
18	富永 京子	信毎セミナー=多様な声が届く運動を	信濃毎日新聞	2018年4月25日
19	富永 京子	社会運動に学ぶ、身近な「政治」へのかかわり方	桐光学園中学校・高等学校「大学訪問授業」	2018年5月9日
20	富永 京子	日本人の「政治ざらい」と若者の社会運動	シノドス・ラウンジ	2018年5月26日
21	富永 京子	合評会『歴史修正主義とサブカルチャー』	お茶の水大学ジェンダー研究所	2018年6月5日
22	富永 京子	『社会運動と若者——日常と出来事を往還する政治』	研究会「職場の人権」	2018年6月16日
23	富永 京子	高齢者描く漫画に共感 生きがいや不安、介護などに光当て 中高年読者、自らの将来重ね反響	共同通信	2018年6月30日
24	富永 京子	世代を超えた社会運動は可能か? 思想押しつけ若者に抵抗感	東京新聞	2018年7月27日
25	松原 洋子	「論点争点 強制不妊で国提訴 優生政策解明と検証を」(インタビュー)	日本経済新聞	2018年5月28日
26	松原 洋子	「強制不妊手術 法案修正過程の「攻防」 対象拡大にGHQ疑義 ゆがんだ「理想」排除正当化」(コメント)	毎日新聞	2018年6月25日
27	松原 洋子	「優生保護法下での強制不妊手術問題 一歴史的観点から」	公開講演会 第47回社会福祉のフロンティア「旧優生保護法と強制不妊手術：国家責任を問う」、立教大学社会福祉研究所、立教大学池袋キャンパス	2018年6月30日
28	松原 洋子	「調査報道、当事者救済導く」(コメント)	毎日新聞	2018年9月6日
29	松原 洋子	「優生保護法の歴史と現在」	9.24共に生きる集会「踏みにじられてきた障害のある人の性と生殖—優生思想のない地域社会に向けて」、優生思想のない地域社会を創る会、熊本学園大学	2018年9月24日
30	松原 洋子	「優生保護法と日本の優生政策」	まちだ市民大学 HATS 人間学「人間科学」講座、町田市教育委員会生涯学習部、町田市生涯学習センタ	2018年10月3日

			ー	
31	松原 洋子	「優生学の歴史と現在-優生保護法を中心に」	大阪私立学校人権教育研究会 障がい者問題研究委員会、大阪市ドーンセンター	2018年10月16日
32	松原 洋子	「優生保護法と強制不妊手術-その歴史的背景」	全日本民主医療機関連合会理事会、平和と労働センター（東京都文京区）	2018年10月19日
33	松原 洋子	「実態解明は国の責任」（隠れた刃 戦後の優生保護法）	京都新聞	2019年2月14日
34	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「好きなことをかなえるために」	中日子どもウィークリー	2018年4月7日
35	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「予定の見える化を」	中日子どもウィークリー	2018年5月16日
36	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「悩める子どもたち」	中日子どもウィークリー	2018年6月7日
37	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「子どもの悩みを聞く」	中日子どもウィークリー	2018年6月30日
38	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「晴れたり嵐が来たり」	中日子どもウィークリー	2018年7月28日
39	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「もうすぐ防災の日」	中日子どもウィークリー	2018年8月25日
40	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「人生を変える練習」	中日子どもウィークリー	2018年9月22日
41	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「幸せを買う方法」	中日子どもウィークリー	2018年10月20日
42	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「友達関係の悩み」	中日子どもウィークリー	2018年11月17日
43	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「大きな時間の流れ」	中日子どもウィークリー	2018年12月15日
44	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「楽しい、難しい友達関係」	中日子どもウィークリー	2019年1月12日
45	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「良い子は重荷にも」	中日子どもウィークリー	2019年2月9日
46	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「うまくいかない時」	中日子どもウィークリー	2019年3月9日
47	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	京都市・立命館大学、2019年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2018年4月3日
48	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	京都市・立命館大学、2019年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2018年4月4日
49	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身ともに健やかに働くために	茨木市・立命館大学、2018年度新人職員研修	2018年4月13日
50	安田 裕子	TEA（Trajectory Equifinality Approach：複線径路等至性アプローチ）—15年間のひろがり臨床心理におけるTEAの活用（講演）	茨木市・立命館大学、立命館大学大学院人間科学研究科開設記念イベント第1弾 第8回総合心理学セミナー	2018年5月12日
51	安田 裕子	基礎研究から新たな実践へ：トラウマ記憶とアタッチメント—児童虐待における司法面接と心身のケアとの連携への示唆（シンポジウム）	立命館大学大阪いばらきキャンパス AN210、多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装（研究代表者：仲真紀子）主催	2018年5月26日
52	安田 裕子	理論編 TLMG（発生の三層モデル）と促進的記号（講演）	茨木市・立命館大学、TLMG（発生の三層モデル）の可能性	2018年7月21日
53	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身ともに健やかに働くために	茨木市・立命館大学、2018年度新人職員研修（中途採用）	2018年10月16日
54	安田 裕子	パネルディスカッション 日本国内におけるナラティブ研究の特徴 ナラティブ×複線径路等至性アプローチ（TEA：Trajectory	京都市・立命館大学、国際シンポジウム 言語学習・言語教育におけるナラティブの国際的展望—海外と国内のナラティブ研究の対話と展開	2018年11月17日

		Equifinality Approach)の観点から(指定討論)		
55	安田 裕子	TEMを用いて分析した修士論文の中間報告に対するスーパーバイズ(特別研究のゼミにて)	東京都千代田区・共立女子大学、共立女子大学大学院看護学研究科地域看護学分野	2018年11月29日
56	安田 裕子	子どもが性被害を打ち明けたときの対応に関するロールプレイ	姫路市医師会館5階大ホール、トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築(研究代表者:大岡由佳)主催 企画・田口奈緒 市民講座「地域における性教育—子どもへの性被害の現状を踏まえて」	2018年12月2日
57	安田 裕子	グループディスカッション「司法面接前・中・後での子どもに安心感を与える働きかけとは」(実務家研修)	立命館大学大阪いばらきキャンパス B275・276 ラーニングスタジオ、多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装(研究代表者:仲真紀子)主催 「司法面接の前・中・後における子どもへの支援・ケアに関する検討会」	2018年12月9日
58	安田 裕子	過程と発生を捉える TEA(複線径路等至性アプローチ)—TEMを中心に(講習会)	金沢市・金沢歌劇座、中部 M-GTA 研究会 第2回講演会	2019年1月13日
59	安田 裕子	子どものいない人生を考える(講演)	奈良市・奈良県女性センター、平成30年度女性の活躍支援講座II	2019年1月19日
60	安田 裕子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成(パネルディスカッション)	茨木市・立命館大学、2018年度立命館大学人間科学研究年次総会「人間科学と混合研究法の未来」	2019年2月26日
61	安田 裕子	基礎研究から新たな実践へ:トラウマ記憶とアタッチメント—児童虐待における司法面接と心身のケアとの連携への示唆(シンポジウム録)	RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域 研究代表者仲真紀子「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」(2016年度~2018年度)研究助成	2019年2月
62	安田 裕子	アンコンシャス・バイアス研究へのいくつかのサジェスション(指定討論)	大阪市・関西大学、アンコンシャス・バイアス研究会 第1回研究会	2019年3月9日
63	渡辺 克典	障害・病をもつ人びとによる当事者運動	JMOOC 講座 立命館大学「生存学の企て—病い、老い、障害とともに」	2019年1月~2019年2月
64	葛城 貞三	難病患者が地域で生きていくために	安曇川公民館 ふじのきホール	2019年3月
65	箱田 徹	報告会「ドイツ・ハンバットの森炭鉱開発反対闘争参加報告」	カフェラバンデリア	2018年12月07日
66	松波めぐみ	月刊「和合」(機関誌)に連載。「分け隔てなく、共に生きられる社会のために」	浄土宗社会部	2018年10月~2019年3月
67	松波めぐみ	京都新聞コラム「人権ロコミロ座」手話言語条例について	京都新聞	2018年12月8日
68	村上 潔	Casio, Holly, 2017, "The Economy of Zines", Cool Schmool.=2018, 村上潔訳「ジンの経済」	arsvi.com (http://www.arsvi.com/2010/20180620mk.htm)	2018年6月
69	村上 潔	「トークセッション「オリンピックとジェントリフィケーション」出演にあたって」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/09/01/20180901mk/)	2018年9月
70	村上 潔	「デトフォードの占拠運動者たちは訴える、「ジェントリフィケーションは組織犯罪だ」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/09/03/20180903mk/)	2018年9月
71	村上 潔	Omonira-Oyekanmi, Rebecca and Izzy Koksai, 2017, "Housing Activists Stand up to Dodgy Landlords and Council Bullies", openDemocracy.=2018, 村上潔訳, 「居住運動者たちは危険な家主と自治体のいじめに立ち向かう」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/09/18/20180918mk/)	2018年9月
72	村上 潔	Focus E15 Campaign, 2018, "Newham Resident Bullied and Threatened with 'Intentional Homelessness'".=2018, 村上潔	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/09/20/20180920mk/)	2018年9月

		訳, 「いじめを受け、「意図的なホームレス」とされる危機にあるニューアム区居住者」		
73	村上 潔	「トークセッション「オリンピックとジェントリフィケーション」を終えて」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/09/27/20180927mk/)	2018年9月
74	村上 潔	Art&Critique, 2018, "Open Forum, Deptford Art & Gentrification Walk. Old Tidemill Wildlife Garden, May 2018".=2018, 村上潔訳, 「公開フォーラム: アートとジェントリフィケーション (2018年5月) — 議論の概略」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2018/10/01/20181001mk/)	2018年10月
75	村上 潔	Artists Against Social Cleansing, 2019, "We Stand Opposed to the Use of Art to Artwash Social Cleansing!".=2019, 村上潔訳, 「アートウォッシュによる社会的浄化へのアートの活用に反対する！」	反ジェントリフィケーション情報センター (https://antigentrification.info/2019/03/07/20190307mk/)	2019年3月
76	高 雅郁	高等教育における障害者研究会		2018年6月—2019年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	西 成彦	読売新聞社	第 70 回読売文学賞 随筆・紀行賞	『外地巡礼——「越境的」日本語文学論』	2019年2月
2	太田 啓子	日本福祉のまちづくり学会	大会優秀賞	知的障害のある人とつくる合理的配慮研修—Social Relationの観点からの検討—	2018年12月
3	孫 美幸	大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会咲耶会	第 3 回咲耶出版大賞特別賞	『日本と韓国における多文化共生教育の新たな地平』『境界に生きる』の2冊	2018年9月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	大谷 いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
2	小川 さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリアンス探求による人道支援・開発ギャップの克服	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担
3	小川 さやか	平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担
4	小川 さやか	アジア—アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
5	小泉 義之	ドゥルーズ研究の国際化拠点の形成	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	分担
6	桜井 政成	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	代表
7	桜井 政成	カナダのNPOによる貧困地域支援にみる社会的企業化と市民参加促進の架橋モデル	基盤研究 (C)	2015年4月	2019年3月	代表
8	サトウタツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2019年3月	代表
9	サトウタツヤ	裁判員裁判の評議デザイン-評議におけるストーリーの構築過程と法実践手法の解明	基盤研究(B)	2017年7月	2020年3月	分担
10	サトウタツヤ	人の生の潜在性と可能性に接近する	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	分担

		TEA—文化をとらえ、分岐をつくる				
11	サトウタツヤ	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担
12	サトウタツヤ	医師のジェンダーの関与と、診療対話の視線と脳活動にみる、新しい医療交渉学の開発	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2019年3月	分担
13	鎮目 真人	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容—量質混合方法論による接近	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	分担
14	立岩 真也	障害基礎年金制度の成立背景の明確化及び現行の障害者所得保障の問題改善について	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
15	立岩 真也	病者障害者運動史研究—生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
16	立岩 真也	重度な障がいのある人がどこでも安心して暮らせるための看護支援プログラムの開発	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
17	千葉 雅也	ドゥルーズ研究の国際化拠点の形成	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	分担
18	DUMOUCHEL PAUL	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	分担
19	富永 京子	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	分担
20	富永 京子	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
21	富永 京子	市民社会とともに歩むコモンズ—中山間地域活性化の数理社会学的研究—	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担
22	長瀬 修	東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
23	長瀬 修	病者障害者運動史研究—生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
24	中村 正	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
25	中村 正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
26	松原 洋子	戦後日本の人工妊娠中絶の制度史：医療・人口・地政学	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
27	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
28	美馬 達哉	脳卒中患者に対するVR技術を用いたトレッドミル歩行の効果と回復メカニズムの解明	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
29	美馬 達哉	臨床音楽による癒し感の生理・心理的定量化手法の開発—音楽併用リハビリテーション—	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
30	美馬 達哉	「老成学」の基盤構築—く媒介的共助—による持続可能社会をめざして	基盤研究(B)	2015年7月	2019年3月	分担
31	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	新学術領域研究(研究領域提案型)	2015年11月	2020年3月	分担
32	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	国際共同研究加速基金(国際活動支援班)	2015年11月	2020年3月	分担
33	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究(研究領域提案型)	2015年6月	2020年3月	代表
34	美馬 達哉	直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
35	村本 邦子	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
36	望月 茂徳	共生型高付加価値社会におけるインクルーシブなインタラクティブメディア	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

		の開発				
37	安田 裕子	日中韓の新型留学プログラムにおける言語文化教育の在り方と支援方法の提案	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
38	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近するTEA—文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
39	安田 裕子	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担
40	やまだ ようこ	「かわいい」とは何か—ビジュアル・ナラティブによる多文化心理学の異種むすび法	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
41	渡辺 克典	病者障害者運動史研究—生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
42	渡辺 克典	障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	分担

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	美馬 達哉	希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット (HAL-HN01) を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	2017年4月	2018年11月	分担
2	富永 京子	多文化共生型デモクラシーを支える社会基盤—制度・構造・規範の国際比較共同研究	日本学術振興会 課題設定による先導的人文科学・社会科学研究推進事業 (グローバル展開プログラム)	2017年2月	2019年9月	分担
3	富永 京子	「若者が社会について語る場」としての雑誌投稿・ラジオ聴取の再検討	財団せせらぎ 助成事業	2018年10月	2019年10月	代表
4	富永 京子	新しい中間層の可視化理論とその実証分析:リベラル派中間市民 (コモン・シティズン) の新たな供給源を探る	三菱財団 研究助成	2018年	2019年	分担
5	富永 京子	「ハガキ職人」から見るラジオ文化の創造と再生産	公益信託高橋信三記念放送文化振興基金 研究助成	2018年	2019年	代表
6	富永 京子	1970年代における「若者」表象の研究 —政治の季節と大衆消費社会のはざままで	サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成	2018年	2019年	代表
7	岸 政彦	戦後沖縄社会の構造変容—戦争体験と戦後の生活史の実証分析	第47回 (平成30年度) 三菱財団人文科学研究助成	2018年10月	2019年9月	代表
8	櫻井 悟史	大阪キャバレー100年史—盛り場と社交の歴史社会学	サントリー文化財団 若手研究者による社会と文化に関する個人研究助成 (鳥井フェローシップ)	2018年4月	2019年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録 (特許) 番号	国
該当なし								